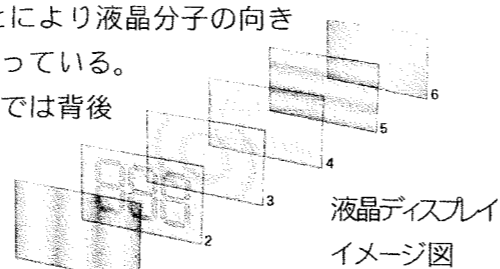


変わっていくディスプレイ

「節電！」と言われた昨年、エコけんの「エコワット」を借りて、家中の家電品の使用電力量を計りました。その時心に残ったのが、買ったばかりの液晶テレビは、あまり電気使わないなあ、ということでした。待機時消費電力は、ほとんどありませんでしたし、視聴中も電灯とそう変わらない、50w/hくらいでした。もちろん、こまめにスイッチオフで、節電を実行していましたが、テレビ自体が省エネタイプだとらくらく節電できますね。

■ 液晶ディスプレイとは ■

2枚のガラス板の間に特殊な液体を封入し、電圧をかけることにより液晶分子の向きを変え、光の透過率を増減させることで像を表示する構造になっている。液晶自体は発光せず、明るいところでは反射光を、暗いところでは背後に仕込んだ蛍光灯(バックライト)の光を使って表示を行う。

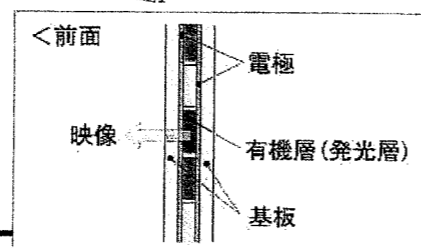


液晶ディスプレイイメージ図

そして、今後、テレビなどのディスプレイは、有機ELディスプレイで、もっと省エネになりそうです。

有機ELディスプレイ

電流を流すと発光する有機化合物を利用したディスプレイ。2枚のガラスの間に有機化合物をはさみ、電圧を加える。



▲有機ELディスプレイ

メリット

1. 自身が発光するため省エネルギー
2. なめらかでくっきりきれいな映像
3. 斜めから見ても映像がよがまない
4. インク状にもなり、紙やプラスチックに印刷できる

デメリット

1. 高価
2. 表示画面サイズが小さい
3. ディスプレイの寿命が液晶より短い

すでに、有機ELは、スマートフォンに使われています。かなり薄型が可能ですが、液晶に比べ画面が少し暗いようです。屋外では見にくい場合もあります。

また、液晶ディスプレイに組み込むだけで、有機ELを超える画質を実現できる安価なフィルムが産学協同で開発され、新しい技術は日進月歩です。

小学生のころ、家のテレビがカラーになって、わくわくしたことを覚えています。これからも、最新技術が環境負荷の少ない発展を続け、私たちの暮らしを豊かにしてくれるといいな、と思います。

《ひら》

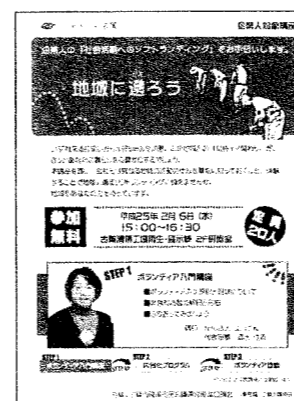
【参考資料】 <http://yuukiel.com> <http://www.nikkei.com>

地域に還ろう

2月6日(水) ぐりんぐりん古賀に所属しておられる企業の従業員さんを対象に、「地域に還ろう」というセミナーを開きました。これは、エコけんでき新しく取り組んでいる、「企業人の社会活動へのソフトランディングをお手伝い」するセミナー企画のファーストステップにあたります。



多様な立場の構成員からなるぐりんぐりん古賀にとって、社会活動への共通認識を持つことは大事なことです。この一年間、9回開催されたぐりんぐりん環境体験講座の中で、参加者にはそのほんの一端についてお話ししてきましたが、今回のセミナーでは、それをメインテーマに90分の時間をかけて情報や活動の方向性を分かち合うことになりました。



セミナー中は、社会活動についての情報として、企業と社会活動、個人と社会活動、中間領域について、歴史や背景について簡単に話をしたあと、参加者それぞれの方にご自分と社会活動のつながりについて語っていただきました。当日、企業から参加された方は2社4名と少なかったものの、だからこそゆっくりと語れる時間が持てました。終了後、「次のステップの講座にも参加してみたい」という言葉もいただきました。初めての試みとしてはまずまずの成果だったと感じています。

企業人として長い時間と精力を傾けて過ごされた時代から、退職後、いかに地域に還っていくかは、おひとりおひとりに課せられた課題ともいえます。そのソフトランディングがうまくいくことは、地域にとっても大きな力となることでしょう。

今後、今回の内容を整理し、ステップ2、ステップ3開催へどうつながるか、息長く検討していきたいと思っています。

《S》

つれづれ草枕 2月

梅一輪 七輪ほどは 温くない
身を切るような寒気の中 1輪の梅の開花に春の予感が...
だが、しかし、七輪の暖かさには か・て・な・い!
七輪って 知ってる?



《日女》

松原植樹が終わって
イエーイ!!



交流座談会 参加報告



▲たくさんの団体さんと交流

低炭素社会推進福岡協議会（LCFC）主催の「「エコ発する事業」推進のための協力・連携に向けた座談会」に参加しました。座談会には、任意団体、NPO法人、財団法人、企業の参加があり、団体の抱える問題解決に向けての話をしながら、交流を図るものでした。話し合いの過程でそれぞれの団体の特徴が垣間見え興味深くお話を伺いました。

ところで、福岡市には「エコ発する事業」という補助金制度があります。これは、未来の子どもたちに美しい地球環境を残すために活動をする市民団体を支援するものです。ボランティア活動でも経費は発生しますので、市民活動を促進する嬉しい制度です。さすが、政令指定都市！ 共助社会に向けて求められる制度の1つではないでしょうか。

《Ms. W》

福津市一斉植樹祭 参加報告

2月の1%クラブ。2月23日9時、福津市の松林にエコけんメンバー5人は集合しました。（若い男性の新メンバー1名）その地域での参加者は、子どもから年配の方まで100名程度でしょうか。関心の高さを感じました。目的は、松の植樹。松食い虫に強いというスーパークロマツをみんなで200本植えました。



▲作業には体力が必要です

松葉かきも松原保全に、大切な作業です。松林で松葉が腐葉土になると、雑草が生え、松は競争に負けてしまいます。現地では、奥に行くほど砂浜が腐葉土になっていました。

自分が植えた松には、ネームプレートをかけました。愛着もわきます。植樹と草取り、松葉かきを1時間ほどすると、汗もかき、さわやかな気分です。最後に地域の方においしい豚汁をごちそうになりました。

今回作業できたのは、ほんの少しの松林です。松原全てとなると、本当にたいへんでしょう。少しずつでも地道な活動が必要だと感じました。みなさんも、ぜひ一緒にしてください。

《ひら》

次回のエコけん1%クラブ



3月8日(金) 15:00~1時間程度 エコロの森周辺

参加されたい方は、ご連絡下さい。



未来を創るインタビュー

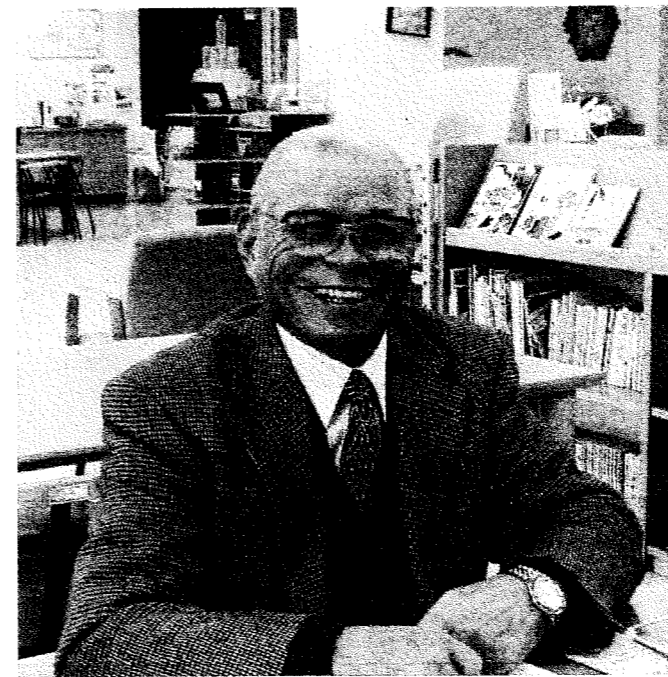
No.21 古賀市身体障がい者福祉協会

会長 鶴原 誠二 氏

古賀市にお住まいの鶴原誠二さんにインタビューしました。

鶴原さんは、古賀市身体障がい者福祉協会の会長を足かけ9年務められています。昨年は、文化の日には、古賀市より表彰状を授与されたそうです。「第11回全国障がい者スポーツ大会」ご出場に敬意を表してのことです。

鶴原さんは50歳の時、難病に見舞われ、副作用から骨盤の骨頭壊死に至ってしまわれました。落ち込んでいたその時に、障がい者の方々に会って視野が広がり、現在はスポーツを楽しみながら、明るく楽しく、そして病気と向き合いながら毎日を大切に生きるようにされているそうです。「今では障がいになってよかったと言えるようになった。」とやさしい笑顔で答えられたのが印象的でした。そう言えるようになるまでには、たくさんのハードルを乗り越えられたことでしょう。ハードルは違っても前向きに明るく生きなければと思いました。



Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 障がいを抱えた人たちの声に耳を貸し、その人たちの心に一步でも近づき、理解し、共に助け合っていける支援の必要性を感じます。

Q. そのためにご自身で心がけておられること

A. 差別をなくし、心のバリアフリーと障がいを抱える人たちの目線で寄り添える環境のバリアフリーに努力し、気軽に挨拶をし、見守りに心がけたい。

未来を創るメッセージ

障がいのある人も無い人も差別なく、共に生きていける社会

真の共生社会の実現

《Kまま》

思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450

【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp

【HP】http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken